里山の自然と市街地をつなぐ、「育てる里山プロジェクト」がはじまっています。

2015年の春、茨木市に立命館大学・大阪いばらきキャンパスが開設します。大阪いばらきキャンパスでは、地域・社会と連携した教育・研究・学生活動を通じて、お互いが交流し、豊かな地域・社会の創造を目指していきます。その一環として、2012年より「育てる里山プロジェクト」に取り組んでいます。茨木の里山に自生する稚樹を苗木として採取して、キャンパス内に植栽し、茨木の里山を再現するプロジェクトです。協働するのは「里山サポートネット・茨木」。茨木の山間部に広がる里山の保全を中心として、環境ボランティア活動を続けています。「育てる里山プロジェクト」では、開発や外来種の増加など、近年の様々な環境変化によって、従来から茨木地域で生息していた樹木や草花が減少していく現状を、多くの人々に知っていただき、さらにみどり豊かなキャンパスづくりのために「本来の里山」を再現させていきます。

市街地の大学と、里山の環境ボランティアの方々が協働することによって、交流がさかんになり、街と里山が連携した「地域づくり」に、たくさんの人々が参加する機会創出にもつながっていきます。

「安威川ダム ファンづくり会」のサポートをしています。

大阪府立江之子島文化芸術創造センター（enoco） プラットフォーム形成支援事業

安威川ダムプラットフォームの取組（ファンづくり会の運営など）は、大阪府がenocoと取り組んでいます。enocoでは、公共空間の利活用、地域の活性化、街づくりなど、単独の部局だけでは解決が困難な複合的な行政課題に対して、アーティストやデザイナー、府民、専門家などの多様な立場の組織や人が、"プラットフォーム"を形成し、行政主導ではなく、対等な立場で交流・対話を行い、アートやデザイン等をツールとして、解決策を検討し提案する官民共同の体制づくりを支援する「プラットフォーム形成支援事業」を進めています。

ARTとダム。この特異な関係が、ダム開発に新しい価値をもたらせてくれると、私たちは信じている。災害に対するダム機能の役割は言うまでもないが、ダム開発にはもう一つの役割というか、使命があると思う。開発によって自然や集落が失われたことは事実であり、また広大な自然環境が残されていることも事実である。ダム開発を、人と自然の関わりを見つめ直すきっかけとして捉えてみては、どうだろう。失われた風景を思い出の中に仕舞い込むのではなく、未来に活かしていく。次世代につないでいく。しかし、策を講じなければ、人々の意識はそこに向かない。私たちは、ARTという異質なもので、人と自然を、意識と場を繋いでみようと思う。

甲賀 雅章
大阪府立江之子島
文化芸術創造センター 館長

プラットフォーム形成支援事業 その他の取り組み

「演劇を取り入れた防災まちあるきの実施」

地域の防災意識を高めるため、学校を核とし、PTAや町内会、行政が協働してプラットフォームを作り、子どもたちとともにまちの危険箇所を体感し、防災学習を行うモデル事業を実施しました。

「木津川遊歩空間設計・活用等についてのワークショップ」

遊歩道を設計・施工・活用するにあたり、地域・専門家・行政等でプラットフォームを作り、地域の声を反映させたデザインを採択するとともに、活用方法についても地域とともに方向性を検討しています（現在も継続中）。

大阪府立江之子島文化芸術創造センター（enoco）
〒550-0006　大阪市西区江之子島２丁目１番34号
電話：06-6441-8050　Fax：06-6441-8151
開館時間：10:00～21:00　休館日：月曜日・年末年始（12/29～1/3）
HP：www.enokojima-art.jp

INFORMATION

「安威川ダム情報交流センター」へお越しください。

安威川ダムについて皆さんに知っていただくために、「安威川ダム情報交流センター」を開設しています。ダムの役割やダム周辺の環境保全対策について、広く一般の方々に情報を提供するとともに、ご意見を頂くことを目的としています。
センター内では、ダム事業地周辺の立体模型やパース、パネルの展示、パンフレットの配布、ビデオ放映を行い、ミニ図書館も設けています。
これまで茨木市山手台にありましたが、平成24年の春に茨木保健所の５階に移転し、リニューアルしました。今までと同様に、自由に見学・閲覧できますので、皆さん、ぜひ一度お越しください。

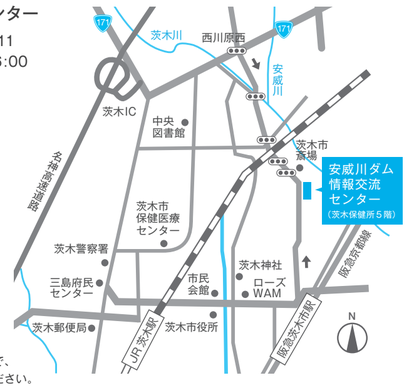
安威川ダム情報交流センター
場　　所：茨木市大住町８-11
開館時間：平日 10:00～16:00

アクセス

〈車でお越しの方〉
国道171号西河原西交差点を南に下って４つ目の信号を過ぎて左側にあります。

〈電車でお越しの方〉
阪急茨木駅（北口）より北に向かって徒歩約10分です。

※地下には駐車場がありますが、収容スペースに限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。



安威川ダム建設事務所ホームページ
http://www.pref.osaka.lg.jp/aigawa/

安威川ダム建設についてホームページを開設・運営しています。
ダムの建設内容や環境保全対策について、わかりやすく解説したサイトです。
「安威川ダムニュース」のバックナンバーが閲覧できるページも用意しています。

このパンフレットは、企画から印刷まですべてを外注して作成しています。（38万４千部作成。作成費用１部あたり 8.6 円）

大阪府 安威川ダム建設事務所
〒567-0813　茨木市大住町 8-11
TEL：072 (626) 6083　FAX：072 (623) 5963
メールアドレス　aigawa-dam-g01@sbox.pref.osaka.lg.jp

enokojima creates osaka
enoco
大阪府立江之子島文化芸術創造センター

自然と話そう、人と話そう！

安威川ニュース

安威川流域の魅力を知る
人と自然と街 MAP

ダム周辺地域について、みんなで考える
「安威川ダム ファンづくり会」

安威川ダム 建設事務所長に聞く
「ダムと自然、地域社会との関係について」

VOL.1

平成 26 年 7月号

安威川流域の魅力を知る

人と自然と街 MAP

安威川の流域は、北摂の広大な自然と、伝統や文化が育まれた、恵まれた地域です。
休日に、ちょっと足をのばして、美しい景観や自然との触れ合い体験など、
たくさんの「見どころ」「楽しみどころ」を堪能してください。

見山の野菜（見山の郷）

茨木市には、特別天然記念物に指定されている「オオサンショウウオ」や準絶滅危惧種の「オオタカ」が生息しています。

大岩いも掘り園

（左）茨木里山まつり　（右）里山里地保全活動の様子

① 茨木市里山センター

茨木市里山センターは、森林の恩恵を受けている市民の方々に、里山保全活動への関心を持っていただくために開設されました。身近な自然に親んでいただけるよう、「茨木里山まつり」をはじめ、「炭焼き講座」「木工教室」など、さまざまなイベントや講座を開催しています。また、里山・森林整備に取り組んでいる地元のボランティア団体の活動拠点として利用されています。

② 見山の郷（新鮮な野菜などの販売）

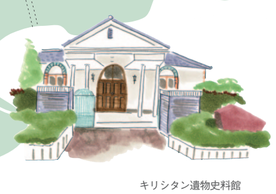
見山地区の標高は200～450mあり、平坦地より気温が2～3℃低く、また、平地よりも寒暖の差が激しい立地を活かした高原野菜は、大きさも味の濃さも抜群です。地元の農家が、毎朝持ち込む約600点の野菜は、鮮度が高く、旨味があると評判で、市内のみならず市外からも、たくさんの方が買いに来られています。

③ キリシタン遺物史料館

昭和62年にオープンしたこの史料館は、「隠れキリシタンの里」として有名な千提寺にあります。「マリア十五玄義図」「キリスト磔刑像」をはじめ、当時の信仰の様子を伝える隠れキリシタンの遺物を展示しています。

④ 権内水路（深山水路）

今から300年ほど前、江戸時代の中期に、庄屋だった畑中権内が独力で掘ったと伝えられる水路。この水路は今なお豊かな流れを保ち、車作地区の農業用水として田を潤しています。



キリシタン遺物史料館

おすすめ散策コース

武士（もののふ）コース　戦国武将が辿った道を往く

いにしえへの思いを馳せて、風光明媚な尾根を歩く健脚向けコースです。

阪急茨木市駅（阪急バス）— 車作バス停 — 1.4km — 車作大橋 — 0.8km — 竜仙の滝 — 2.3km — キツネノカミソリ — 3.6km — 2.1km — 北大阪変電所（阿武山口バス停） — 1.6km — 阿武山 — 0.6km — 阿武山古墳 — 1.4km — 安威バス停

北山コース　大阪と京都の府境に迫る

さわやかな雑木林と渓流、のどかな農村風景を堪能できる健脚向けコースです。

JR摂津富田駅（高槻市営バス）— 中萩谷バス停 — 2.8km — 竜仙の滝 — 0.8km — 車作大橋 — 1.1km — 深山水路北広場（権内水路） — 1.6km — 清阪集落 — 0.9km — 狩待峠 — 2.0km — 見山の郷 — 1.3km — 忍頂寺バス停

竜王山コース　茨木最高峰（単独峰）から見渡す

竜王山展望台からのすばらしい眺望が楽しめる健脚向けコースです。

阪急茨木市駅・JR茨木駅（阪急バス）— 忍頂寺バス停 — 0.2km — 忍頂寺スポーツ公園（竜王山荘） — 0.8km — 忍頂寺（寿命院） — 0.5km — 宝池寺 — 0.3km — 竜王山（展望台） — 0.6km — 岩屋 — 0.2km — 穴仏・負嫁岩 — 1.3km — 清水廃寺 — 1.0km — 車作バス停

佐保・大岩コース　農聖生誕地といも掘り園をめぐる

山あいの佐保・大岩地区ののどかな風景が楽しめる家族向けコースです。

モノレール彩都西駅 — 2.2km — 農聖小西篤好碑 — 2.6km — 八幡神社 — 1.3km — 圓福寺 — 0.7km — 大岩いも掘り園 — 0.9km — 大岩口バス停

総持寺・太田エリアコース　古寺名刹と巨大古墳をめぐる

西国三十三所札所の総持寺や疫水神社、太田茶臼山古墳を巡るコースです。

阪急総持寺駅 — 0.2km — みしま館 — 0.3km — 総持寺 — 1.0km — 疫水神社（磯良神社） — 0.3km — 新屋坐天照御魂神社（西河原） — 1.9km — 太田茶臼山古墳 — 0.8km — 花園東和苑バス停

茨木神社は、市のほぼ中央部にあり、一年を通じて「十日戎」や「茅の輪くぐり」、「夏祭り」、「黒井の清水大茶会」など様々な行事が行われています。境内北側に延喜式内社の天石門別神社が建立されています。茨木神社の東門は、茨木城の搦手門であったといわれています。

⑤ 竜王山

竜王山は、古くから雨乞いの山として信仰され、優れた自然景観が多く残されていることから、大阪府立北摂自然公園に指定され、茨木市のランドマークとなっています。展望台から生駒連山や大阪平野、大阪湾のすばらしい眺望が楽しめます。

⑥ 鉢伏山

鉢伏山は、大阪モノレール彩都西駅から徒歩45分程の所にある標高299mの山です。山頂からは、茨木市南東部の眺望が開け、ゴルフ場なども見渡すことができます。山頂には 昭和6年に朝香宮殿下が登山された記念碑もあります。

⑦ ゴンゴンファクトリー

車作ではかつて、数多くの家で炭焼きが行われ、車作の主産業として営なまれていました。ゴンゴンファクトリーは、この炭焼きを再生するために開設されました。周辺には、広場があり、里山地域と市街地住民との交流の場となっています。

⑧ 縄文カフェ まだま村

千提寺の竹林の中に、ひっそりと佇んでいるのが現代風縄文竪穴住居「まだま村」です。柱に200年前の古材を、屋根材には琵琶湖の葦を使用しています。普段はカフェとして、時にはライブなどのイベントスペースとして、幅広く利用されています。

⑨ 太田茶臼山古墳

全長226mの前方後円墳。周辺の発掘により、大量の埴輪や須恵器片が出土しています。宮内庁によって継体天皇の三島藍野陵に治定されていますが、ここから東の高槻市にある「今城塚古墳」が、継体天皇陵ではないかといわれています。

⑩ 乾邸のイチョウ

乾邸のある安威地区は、小高い丘陵地となっており、かつて地元の土豪、安威氏によって安威城が築かれた所であるといわれています。樹高25m・樹齢200年をこえるこのイチョウは、丘陵地にあることから、近くを走る府道からもよく見えます。

⑪ 若園公園 バラ園

150品種・2,300株のバラが植栽されており、春と秋の2回、美しいバラの競演を見ることができます。バラは茨木市の花でもあり、バラ園は市民の憩いの場となっています。園内には、水の流れるせせらぎや、園全体が見渡せる展望所があります。

⑫ 郡山観光みかん園

10月下旬～11月上旬の期間限定で「みかん狩り体験」が楽しめます。収穫したみかんは、その場で味わうこともでき、酸味がのこる美味しいみかんは、子供たちにも好評です。近くには、ブランコやジャングルジムがある郡山公園があります。

⑬ サン・チャイルド

再生・復興してゆく東北の人々の心に、大きな夢と勇気を与える希望のモニュメント。現代美術作家として国内外で幅広く活躍されているヤノベケンジさんによる、高さ6.2mにおよぶこの巨大な子どもの像は、来たるべき未来像をあらわしています。

⑭ 宇野辺の町並み

亀岡街道は、大阪市から吹田市に入り、茨木市の宇野辺から穂積、郡を通り中河原で西国街道と交差します。
宇野辺の町には、長屋門の立派な家屋など、旧家と古い町並みが多く残っています。

⑮ 総持寺

十一面千手観世音菩薩を本尊とする高野山真言宗のお寺で、西国33ヵ所第22番目札所として名高く、巡礼や観光客で賑わっています。創建者の藤原山蔭は、千日料理の伝承から料理の始祖とたたえられ、毎年4月18日に「庖丁式」が行われます。

イラスト／寺田マユミ　写真提供／茨木市観光協会

Event Information
イベント情報

⑯ 大岩いも掘り園

茨木市大字大岩にある大岩いも掘り園は、ホクホクとした食感で甘味の強い「紅あずま」という品種のさつまいもが植えられています。9月下旬から期間限定でいも掘り体験ができ、園内ではバーベキューも楽しむことができます。

日時：2014年 9月15日（月）-11月3日（月）（土・日・祝日のみ）
場所：大岩観光農業組合 大岩いも掘り園

⑰ 茨木フェスティバル

茨木中央公園にて、毎年7月末の土・日に開かれる市民の夏祭り。公園内に並ぶたくさんの出店や盆踊り、メインステージでのショーや参加型のイベントなど、大人から子供まで楽しめる催しが盛りだくさんです。

日時：2014年 7月26日（土）、27日（日）
場所：茨木市役所前 中央公園

⑱ 茨木神社の夏祭り

夏祭りの御神輿の渡御は「島下郡の祇園祭」として親しまれてきました。午前の「出幸祭」の後、大御輿、枕太鼓、子ども御輿が氏地を巡幸します。クライマックスは、本宮夕刻から始まる、勇壮な御神輿の宮入り。当日は、境内に露店も出て賑わいます。

日時：2014年 7月13日（日）、14日（月）
場所：茨木神社

⑲ 弁天さんの花火大会

茨木の夏の風物詩。夜空をいろどる光の祭典に市外からも多くの見物客が集まります。
約3000発の花火を打ち上げ、最後には、辯天宗の宗紋である桔梗（ききょう）の紋をかたどった花火が打ち上げられます。

日時：2014年 8月8日（金）
場所：辯天宗冥應寺境内

⑳ 茨木市 農業祭

茨木市の農業者による自家生産物の品評会をはじめ、地元野菜、生鮮食品、生活資材、植物、地酒の販売コーナーやクラフトコーナーなど、大人から子供まで、「遊んで、体験できる」たくさんのイベントが開催されます。

日時：2014年 11月22日（土）、23日（日）
場所：茨木市役所前 中央公園

未来につなぐ美しい自然、創造と交流の里をつくる。

安威川の豊かな自然は「地域資産」。

安威川ダム建設事業の変遷としては、昭和42年の北摂豪雨災害を契機にダム構想が立案され、平成11年には本格的な用地取得の着手、平成21年には水需要予測の見直しにより、利水（水道）事業が撤退し、「治水・利水による多目的ダム」から「治水ダム」として継続することが定められました。約50年に渡り、国、自治体、地元住民との間で、ダム建設の是非、着工による自然環境への影響、住民生活の変化、または治水によって安全を保つことになる市街地の状況など、様々な課題について協議を重ねてきました。
地域の未来を見据えていく上で、これら過去の経緯と歴史を「しっかりと知る」というところから、はじめなければならないと考えます。ダム建設予定地周辺、さらに上流部には、とても豊かな自然が広がっています。この恵まれた自然が「地域資産」であるということを忘れてはいけません。ダム建設によって失われる自然を全力で回復していくという命題を何よりも優先させるべきです。
ダムを上手に活用することも大切ですが、流域の自然を積極的に保全するという姿勢こそが重要ではないでしょうか。そして、50年後には、今以上の自然を創出させ、次世代の人々に譲り渡すといった明確な目標設定を掲げる必要があります。

プラットフォームは、「想い」をつなぐ拠点。

そのような「想い」を産・官・学・民、それぞれの参加者が、しっかりと共有していくためには、その拠点となるプラットフォームづくりが必要だと考えます。プラットフォームとは、まさに駅と同じで、様々な人々が、行きかい、交流し、使いこなせる「場」。「想い」を共有する人々が、自由な発想で、自分たちが得意とする手法を持ち寄って、大きな課題を解決していく。そのような風通しの良い「交流の場」を継続的に育んでいくことが大切です。
公共事業を、これまでのような行政主導ではなく、参加型社会に適合したプロジェクトとするためには、地域活動へのバックアップ体制、協働型のビジネスモデルの構築、次代を担っていく人材育成プログラムなど、ハードからソフトへの構造転換をうながしていく。当然ですが、ソフトにもコストはかかります。従来型の公共事業では、あまり重視してこなかった参加者への活動資金などを、ダム建設費の一部から担保しておくということも方法のひとつです。その資金で、公的な管理を民間にアウトソーシングしていくことによって、より多くのコミュニティビジネスが生まれ、それらが、さらに連携し合うことで大きな力につながっていきます。
また、イベントによる集客、観光産業といった一般的な経済効果ではなく、地域資産を保全し、地域のために活用・運用していくための経済として、お互いが助け合い、人と人との関係に重きをおく「互助経済」を導入していくことも価値があるアプローチだと思います。

合理的ではなく、順応的なマネジメントが大切。

このような試みを実践していくためには、常に歩みながら考え、随時修正を加えていくことができる「しなやかな計画」が必要となります。合理性を追求するのではなく、順応的にマネジメントしていくためのデザインです。そして、多様な意見やアイデアを柔軟に受け入れ、それらを協議する場を設け、様々な人たちとの関係を深めながら、「ファンづくり」を目指していくことが大切ですね。
賛同していただけるボランティアの方々、大学や企業、アーティストやデザイナーなど、みんなが一丸となって方向性を示し、多くの人たちが「自発的に参加できる」「応援したくなる」という機運を生み出していく。さらに「自然環境」「地域社会」「産業経済」がお互いに作用することで、安威川独自の文化を創出し、みなさんが真に誇りを持つことができるまちづくりにつながっていくと思います。

増田 昇 Masuda Noboru
大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 教授

1952年大阪府生まれ。1974年大阪府立大学農学部卒業、1977年同大学院農学研究科修士課程修了。株式会社市浦都市開発建築コンサルタンツ、大阪府立大学農学部助教授などを経て、1997年より現職。専門は、緑地やオープンスペースを対象とするランドスケープ・アーキテクチュア。
2007年7月30日に設置した安威川ダム周辺整備検討委員会では、委員長として、安威川ダム周辺の環境保全や利活用のあり方を提案。

ダム周辺地域について、みんなで考える、「安威川ダム ファンづくり会」が動きだしました。

地域と一緒にできること！

現在工事が進んでいる安威川ダムは平成32年に完成する予定です。ダムは、安威川の下流に位置する市街地を大雨などの水害から守るためにつくられますが、その役割以外に、人々が気軽に楽しめる自然環境を提供したり、地域のさまざまな活動の舞台となったりと、治水以外のたくさんの恩恵をダム周辺や市街地にもたらしてくれる可能性があります。その可能性を引き出し、多くの人々に活用されるダムとしていくために、安威川ダム建設事務所を中心に「安威川ダムファンづくり会」という任意の会を発足させました。

守ることと使うことを一緒に！

ダムが建設されることで自然に大きな影響があり、それを回復させ、守ることも重要です。ファンづくり会では、ダム周辺と市街地に関わる人がアイデアや知恵を出し合いながら、ダム及び周辺の使い方と守り方を同時に考えていこうとしています。使うばっかりでも、守るばっかりでもダメで、その２つをバランスよく進めていこう！という考えのもと、議論をはじめています。
現在、大学やＮＰＯ、教育やアート、パフォーマンス等を専門とする人からなる「文化教育グループ」、環境ボランティアやまちづくりを専門とする人からなる「環境グループ」の２つのファングループがつくられています。そして、グループどうしで活発な意見を交わしながら、ダムがいろいろな意味で地域の資源となるための方策を練っているところです。

みんなが参加したくなる状況づくりを！

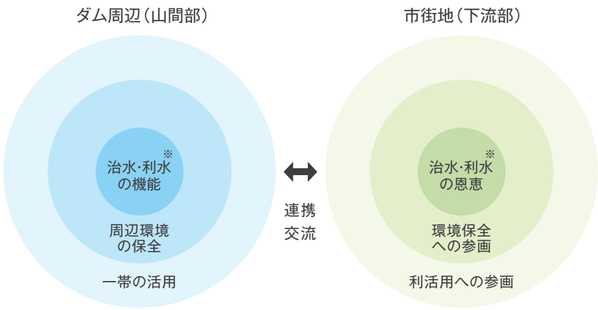
ファンづくり会の目的は、ダムやその周辺地域を愛するファンを増やすことです。そのためには、眺めて美しい、訪れて気持ちが良い、近くに住みたい・住み続けたいと思える環境をつくることと、その環境の中でたくさんの人が楽しんだり、くつろいだりできることが大切です。しかし、すぐに完璧な環境を再現し、多くの方に使ってもらう準備を整えることは簡単ではありません。ゆっくりと着実に環境を再生し、活用できる場所から使っていく、そんなやり方を実験的にトライしながら、近い将来に誰もが関わりたいと感じる状況をつくること。そのための仕組みづくりがファンづくり会の仕事です。

みんなの想いを実現する場所へ！

たとえば、毎日のように演劇がおこなわれるダム、あるいは、たくさんの恵みをもたらす里山のようなダム。いったいどのような使われ方と守られ方が、安威川ダムとその周辺にとってふさわしいのか。その答えを多様な立場のファンと話し合いながら模索していきます。
みんなの想いを実現する場所として、安威川ダムを誕生させましょう。

ファンづくり会のコンセプト

２つのエリアの連携と交流
山間部と市街地が連携しながら、ダム周辺の活用と保全を推進していく必要がある。

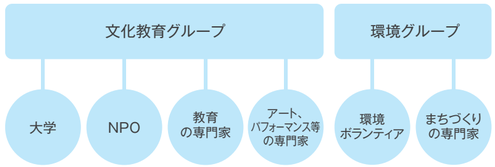


ダム周辺の保全活動促進
山間部では、里山活動をはじめとしたダム周辺の環境保全活動の展開をめざす。

都市部からダムへの活動展開
ダム周辺の活用と保全に係る教育・文化・アート系の活動育成をはかる。

※ 安威川ダムにおける利水機能は、日照りが続いて川の水が減ったときの水質の保全や農業用水の確保、また生物の環境保全などのために、ダムに貯めてある水を一定量流して川の機能を守るためのものが中心となります。水道事業は撤退しましたが、フラッシュ放流（環境改善）のために必要な水をダムに貯めることにしています。
→ P.6「フラッシュ放流とは？」

ファンづくり会のメンバー



「ファンづくりの会」は大阪府安威川ダム建設事務所が大阪府文化課、府立江之子島文化芸術創造センター（enoco）と協働して推進しています。

安威川ダム建設事務所長に聞く

ダムと自然、地域社会の関係について

安威川ダムができることによって、
人々の生活や自然環境・地域社会に
どのような変化があるんだろう？
ダム建設事務所の取組みや、
下村事務所長の地域に対する想いを
取材させていただきました。

インタビュアー
寺浦 薫
［大阪府府民文化部 都市魅力創造局 文化課］

ダムをつくるということは、人や自然と交流すること。

―― 下村所長はダム建設に携わって、どれぐらい経つのですか。

平成７年に初めてダム建設事務所に配属され、この事業に携わってから19年目になります。

―― これまで、どのような活動をされていたのですか。

ダム建設事業というのは、もちろん、設計や工事施工など「ダムをつくる技術」が求められる仕事ですが、それは、大手建設会社の日本でもトップクラスの技術者の方々とともに、しっかりと取り組んで行きます。しかし、私たち行政の最も重要な役割は、ダム事業を進めていくために、地域のみなさんと、様々な問題を協議したり、それにともなう調整をおこなっていくことです。安威川ダムは、昭和42年の北摂豪雨災害を契機に構想が立案されたわけですが、それから48年、ほぼ半世紀に渡る非常に息の長い事業なんです。ダム建設の区域には地域のみなさんが生活されていたり、農業を営んでおられたりします。そのような場所の広大な用地を買収して進めていくわけですから、みなさんへの説明や理解、合意を得ていくためには、当然、長い年月が必要となります。

―― 技術より、むしろコミュニケーションがお仕事の中心なんですね。

はい、ダムの目的は治水であっても、事業の中心は、環境保全や生活再建です。みなさんが大切にしてきた地域のコミュニティーを、できるだけ損失せず、新しい生活をはじめていただくために、多様な意見をお聞きし、様々な調整をおこない、トータルに公平性を守っていくということが仕事です。

安威川上流 竜仙峡

―― 自然環境に対しては、どのような取り組みをされているんですか。

安威川ダムは、非常に街に近い。市街地から少し山間部に入ったところにダムができるんです。そして、ダムおよびその周辺の地域には、かなり広域に豊かな自然環境が残っています。そこに生息する動植物の種類は、約4,500種というのが、私たちの調査でわかっているところですね。貴重種では、オオサンショウウオや、オオタカなどが生息しています。その豊かな自然環境の中にダムをつくるわけですから、やはり環境への大きなインパクトは避けることはできません。ですから、それらの動植物を可能な限り、移していくという取り組みなどをはじめています。その一環として、生態系が自然に循環していく受け皿としてのビオトープづくりも始動しています。失われていく自然環境への対価として、新たな自然環境を、上流部の土地につくりだそうという試みです。
ただ、私たちだけの力では限界がありますので、知識やノウハウに関しては研究者や学識の方々、維持・メンテナンスには地元NPOやボランティアの方々、それらを文化的な活動として継続させていくために企業の協力も必要となってきます。みなさんに、どんどん提案していただきたいと思っています。

―― 地域全体の力で、自然を回復していくということですね。

はい、私たちは、そのために「プラットフォーム」の役割を担っていきたいと考えています。みなさんの提案をキャッチし、伝えていく。あるいは、それに賛同して活動する方々をマッチングさせる。そのような「交流の拠点づくり」を目指しています。
みなさん自身で提案されたことが実現していくことによって、そこに愛着が湧いてくると思うんです。そして、みんなが「守りたい」「地域の誇りにしたい」という想いで、つながっていくことによって、安威川のファンが増えていくとうれしいですね。
みなさんと一緒になって、全力で自然回復に取り組んでいきたいと思っています。

山間部と市街地をつなぐ。安威川が、その象徴になってほしい。

―― 安威川ダムの特徴について教えてください。

中心に粘土でコアをつくり、外部に岩を積み上げてつくる、ロックフィルダムという工法を採用しています。高さは76.5メートルですが、ロックフィルダムとしては中規模程度です。立案の当初は、治水、利水の両方を備えた多目的ダムとして構想されたのですが、近年、水需要の将来予測が下がってきたこともあり、平成21年には利水（水道）撤退を表明し、治水ダムのみの運用ということになりました。その利水分の容量を活用し、安威川ダムの象徴的な特徴が生まれました。ダムができた後の下流の安威川の環境改善ということで、人工的に小規模洪水をおこすシステムを導入します。ダムができると、当然、上流に降った雨をそこに留めますから、下流に洪水がおこることが少なくなります。川の生物にとっては、洪水で川底がいくらかかく乱されることによって、多様性が確保されているんです。
それがなくなると、岩と岩の隙間がなくなったり、河床が固定化してしまって、動植物が生息しにくくなる。そこで、「フラッシュ放流」といって定期的に小規模洪水をおこし、下流部を、より元のダムのない自然の川に近い状態へとキープしようという試みです。この計画を位置付けたダムは、安威川ダムが日本で初となります。

―― 安威川流域は、今後どのようになっていけばよいとお考えですか。

私たちにできることは、上流部の里山と下流部の市街地をつないでいくことだと考えています。流域に住まれている方々が、安威川に関心を持っていただき、豊かな自然と快適な街が融合していくための象徴として、安威川が位置づけられるように、まずは安威川の「良いところ」を伝え、知っていただく。そして、プラットフォームを、しっかりと機能させて、参加型の地域づくりを実践していき、みなさんが安威川に関わっていくことで、「人のいる景観」が育まれてほしいですね。私自身も、人・自然・街が美しく調和した地域づくりに、全力で取り組んでいきたいと思います。

―― 本日は、ありがとうございました。

こちらこそ、ありがとうございます。

下村 良希　Shimomura Yoshiki
安威川ダム建設事務所長

京都大学工学部土木工学科卒、大阪府出身。昭和58年4月大阪府入庁。平成７年4月安威川ダム建設事務所主査、平成９年４月ダム砂防課主査、平成13年４月安威川ダム建設事務所課長補佐、平成22年４月ダム砂防課長、平成24年４月河川環境課長、平成25年４月安威川ダム建設事務所所長

安威川地域の地元住民の方々とワークショップを実施しています。

安威川ダムの完成に向けて、ダム周辺の環境の保全や活用の方策を考え、さらに「魅力のある地域づくり」を目指して、地元住民の方々を中心とした、ワークショップをおこなっています。産・官・学・民が一体となって協働を進め、「プラットフォーム」を形成していく上で、地元の方々の要望や意見、様々なアイデアは、たいへん貴重な財産です。
今後も、たくさんの方々が参加できる「議論の場」を数多く設け、長く継続していける体制づくりに取り組んでいきたいと考えています。

一緒に考え、話し合うことで、「課題」を発見していきます。

ワークショップでは、ダムの利活用をはじめ、観光や景観づくり、地元ボランティアとの連携、その他、高齢化や雇用問題など、様々な視点からの意見が交換され、たくさんの「課題」が発見されました。

今後は、課題の解決に向けて、教育機関、行政、各種NPO団体、デザイナーやアーティストなど、様々な立場の方々に協働で関わっていただき、ダム周辺地域の保全・活用を協働者同士で話し合うワークショップとも連携を図りながら、より専門的な議論を進めていきたいと考えています。

安威川ダムは、北摂豪雨をきっかけに始まりました。

昭和42年７月の大雨により災害が発生しました。
安威川の下流域で氾濫が起こり、大きな被害が出ました。

浸水状況（摂津市鳥飼中）

浸水状況（茨木市沢良宜）

千歳橋の橋脚破損
（茨木市戸伏町）

北摂豪雨災害（安威川流域）の被害内容

○死傷者61名、田端冠水約1,500ha　○河川堤防決壊12箇所、橋梁被害13橋など
○家屋の全半壊41戸、床上・床下浸水約25,000戸　○茨木・摂津市の1/3が浸水

昭和42年 北摂豪雨災害

（安威川流域の状況）

安威川ダムの効果

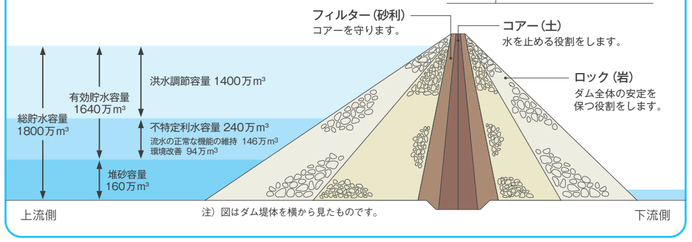
安威川ダムの建設により、100年に１度の大雨（80mm／時間）から下流域（洪水氾濫防止区域）を守ることができます。

ロックフィルダムとは？

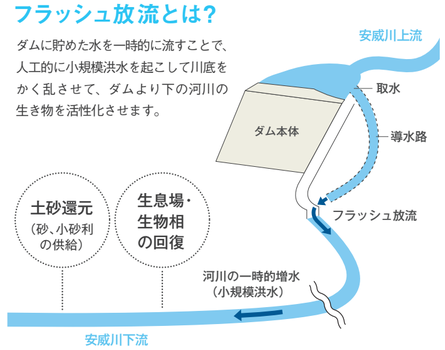
ロックフィルダムは、土や岩石を材料として盛り立てて造られるダムです。ダム中央部は粘土質の材料でつくられています。土や岩石を材料として盛り立てて造られるダムです。

ダム堤体

型　式	中央コア型ロックフィルダム
高　さ	76.5m
長　さ	337.5m
天端幅	10.0m
体　積	222.5万 m³



注）図はダム堤体を横から見たものです。

フラッシュ放流とは？

ダムに貯めた水を一時的に流すことで、人工的に小規模洪水を起こして川底をかく乱させて、ダムより下の河川の生き物を活性化させます。